

## 職員のみなさまへ一言メッセージ(第81回)

早いもので、平成24年(2012年)も、残すところ僅かになりました。この1年間職員のみなさまには、大変お世話になりました。

今年度は真和館開設7年目、お陰様で、第三者評価の結果に示されたように、真和館も立派な一人前の施設になったという気がしています。改めて、みなさまの御努力に対して、感謝を申し上げたいと思います。

さて、今年度は、昨年度の第三者評価の成果をもとに、次のステージに向け力強く歩を進めなければならない年度ですが、それがまだ、できていません。(QC活動ではそれに、ふさわしい良いテーマがあり、期待しています。)

というのは、実は、職員のみなさんに4月から5月にかけて、アンケートによる様々な提案なども頂いた「第2次真和館中期経営計画」も一応出来上がり、早く、職員会議でも議題に上げ、全職員のみなさまから、ご批判も頂き、軌道に乗せたいところですが、私の体調の関係等で、延び延びになってしまっていることも影響しています。(既に、幹部のみなさまには「計画の素案」をお配りし、ご意見をいただいています。)ただ、いずれにしましても、真和館に取って、一つの時代が終わり、既に、新たなステージに入るべく計画の線に沿い手を打ち、実行を始めているところでもあります。

ところで、「第2次真和館中期経営計画」に謳われている事業は、達成すべき水準や解決すべき課題が、これまで以上に難しくなります。

ここで、職員のみなさんに特に、御願いたいことは、難しい仕事はできないと無責任に放り投げないで、できない場合は、手を打ちますので①「報・連・相」をしてください。また、当然のことですが②「真摯にやり遂げ、正しく継続できる職員」をめざしてください。

これまで頑張って、坂を上って来たところですが、さらに、新たな峠をめざし、坂を登り上ることは大変なことだと思います。そこをさらに、前進して行かねばなりません。そうでなければ、真和館も特色の無い、何所にでもある施設になってしまい、みなさんが一生を打ち込める意義ある仕事として選択するには悲し過ぎる職場となってしまいます。

只今は、明確な視界は開けておりませんが、第2次中期経営計画で方向性だけは示されます。ある意味、次の峠越えに挑戦し始めているのが、現時点です。そこで、一つここで、御願いたいことは、一人ひとりの職員が③「当事者意識を持ち、全力投球して」いただき、また、その気持ちさをさらに、強めて頂くために、班長さんは勿論のこと職員のみなさんも、リーダーシップを発揮(単なる出しゃばり、自分の意見を押し通すでは困ります)する気持ちを持つて、仕事に取り組んで頂くことが大事だと思います。

月給分、時間を切り売りするというサラリーマン根性で、本当に良い仕事はできません。自分の仕事だと思って、真剣に向き合ってください。

くる年が、真和館並びに職員のみなさまに取って、良き年となるよう心からお祈りし、年を締めのご挨拶と致します。

平成24年12月25日 真和館施設長 藤本和彦